

1st Firebird Japan Conference 資料

OPEN ADMIN/STMシリーズ

ネットワーク統合監視システムのご紹介

2007年4月
オーエスエスブロードネット
(株)

会社概要

- **会社名** オーエスエスブロードネット株式会社
- **事業開始** 2001年6月1日
- **本店所在地** 神奈川県川崎市
- **代表者** 宮副 英治
- **資本金** 85,100,000円
- **事業内容** OSSソフトの開発・販売・保守
- **主な経営資源**
 - 自社開発ソフトウェア製品 (OPEN STM, OPEN ADMINシリーズ)
 - 成立特許 (ケーブルモデムを利用した伝送路監視)
 - 組織 (上級管理職3名、技術部8名、管理部3名、営業部3名)
 - 事業パートナー (国内3社、海外4社)

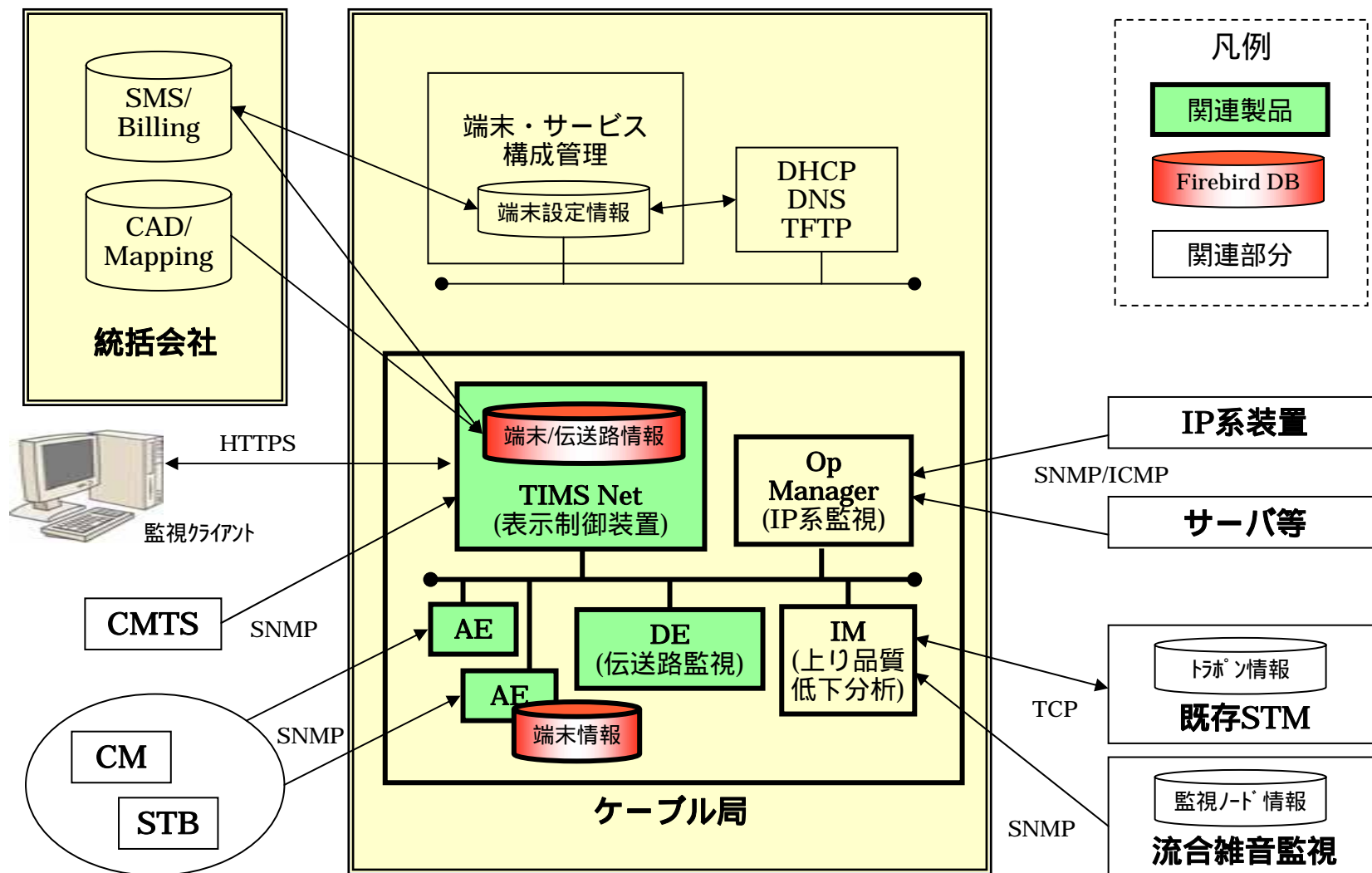
◆ OPEN ADMINシリーズ

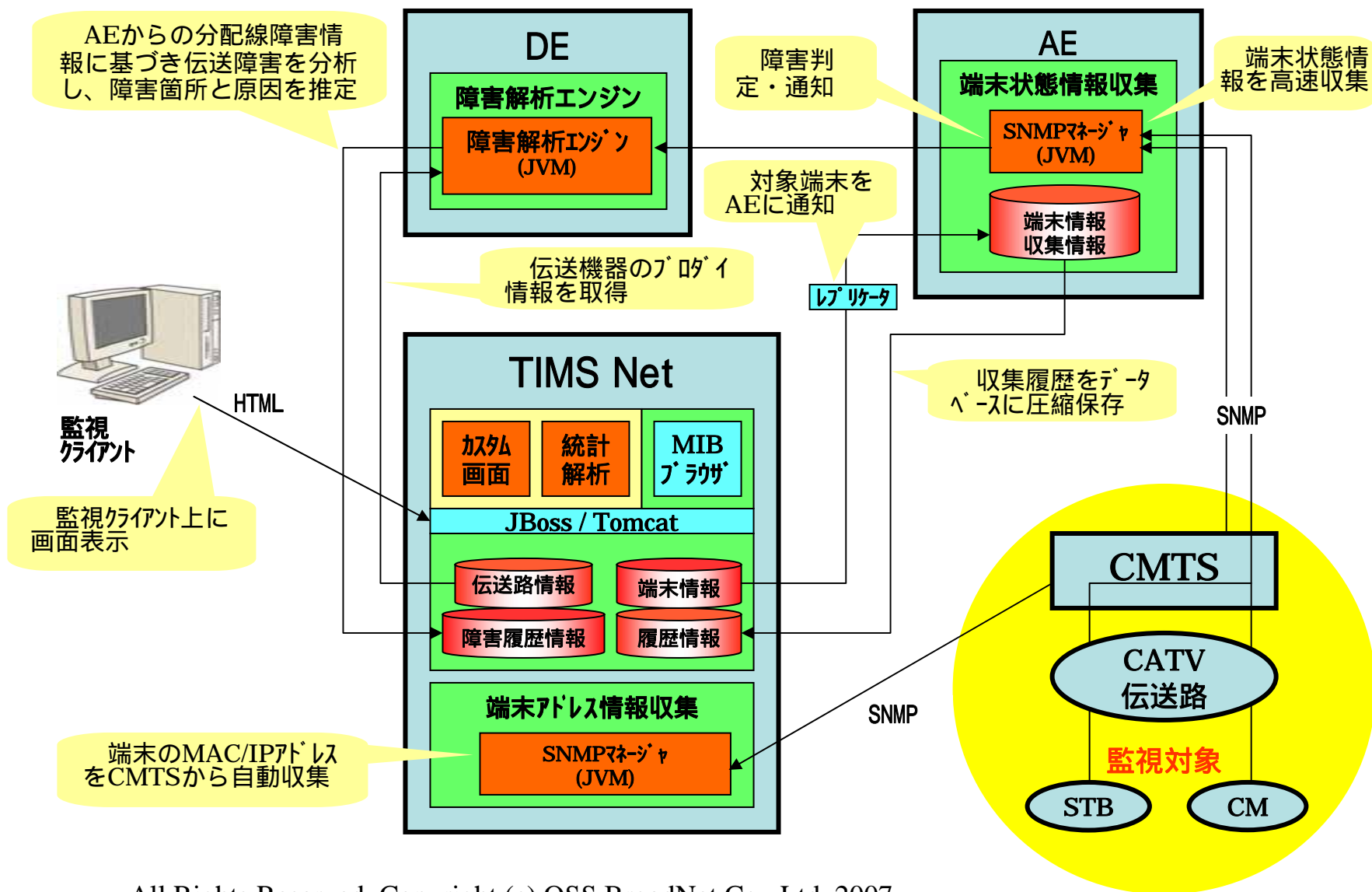
- ◆ ネットワーク事業者の業務を支援するバックオフィスシステム
- ◆ 加入者宅内端末のアドレス情報・状態情報をSNMPで自動収集
- ◆ CRMやSMS/Billingとの統合により、事業者の業務効率を向上
- ◆ 複数局統合により、技術系人員を集約配置し、人件費を削減
- ◆ 障害対応の迅速化による顧客満足度の向上
- ◆ 様々なオプション（データマイニング、視聴率収集など）

◆ OPEN STMシリーズ

- ◆ 加入者宅内の端末を利用したネットワーク監視システム
- ◆ 加入者宅内の双方向端末に、高速・並列にSNMPポーリングを実行
- ◆ 伝送路情報との照合により、障害箇所と原因を自動判定(特許保有)
- ◆ APIと内部構造を公開しており、既存の監視システムとの統合が容易
- ◆ 様々なオプション(ケーブル流合雑音監視、履歴解析など)
- ◆ 将来的にはFTTH技術にも対応予定

システム構成例





◆ Firebirdの採用経緯

- ◆ Oracleではコスト高となり、システム単価が採算に合わない
- ◆ 2000年当時、PostgreSQLは7D/24H運用に不安があり、Interbaseを採用
- ◆ Inter Client ODBC-JDBCに問題が多く、J-Bird & Firebirdへ移行

◆ Firebirdの利点

- ◆ オープンソース
- ◆ 安価なx86 PCサーバ&Linux上で動作
- ◆ J-Birdの開発が活発であり、Java屋である弊社にはありがたい
- ◆ 本格的にトランザクションが使えるのが便利

◆ Firebirdの欠点

- ◆ パフォーマンスチューニングの余地が少なく、性能面に限界あり
- ◆ コネクションやステートメント、結果セットを明示的にクローズしないとDBが壊れる場合があるなど、細かい部分が必ずしも開発者に優しくない

◆ その他

- ◆ 以前と異なり、今では日本ユーザ会メーリングリストが実質的な保守の役割を果たしている。
- ◆ Firebird Bookも出版されるなど、これからFirebirdで開発を行う諸兄には、Firebirdの選択が容易な状況が整いつつあるように思う

◆ J:COM

- ◆ 日本最大手のケーブル統括会社
- ◆ 配下30数局の双方向端末の状態を連続監視
- ◆ 約200台のLinuxサーバ上で商用稼働中

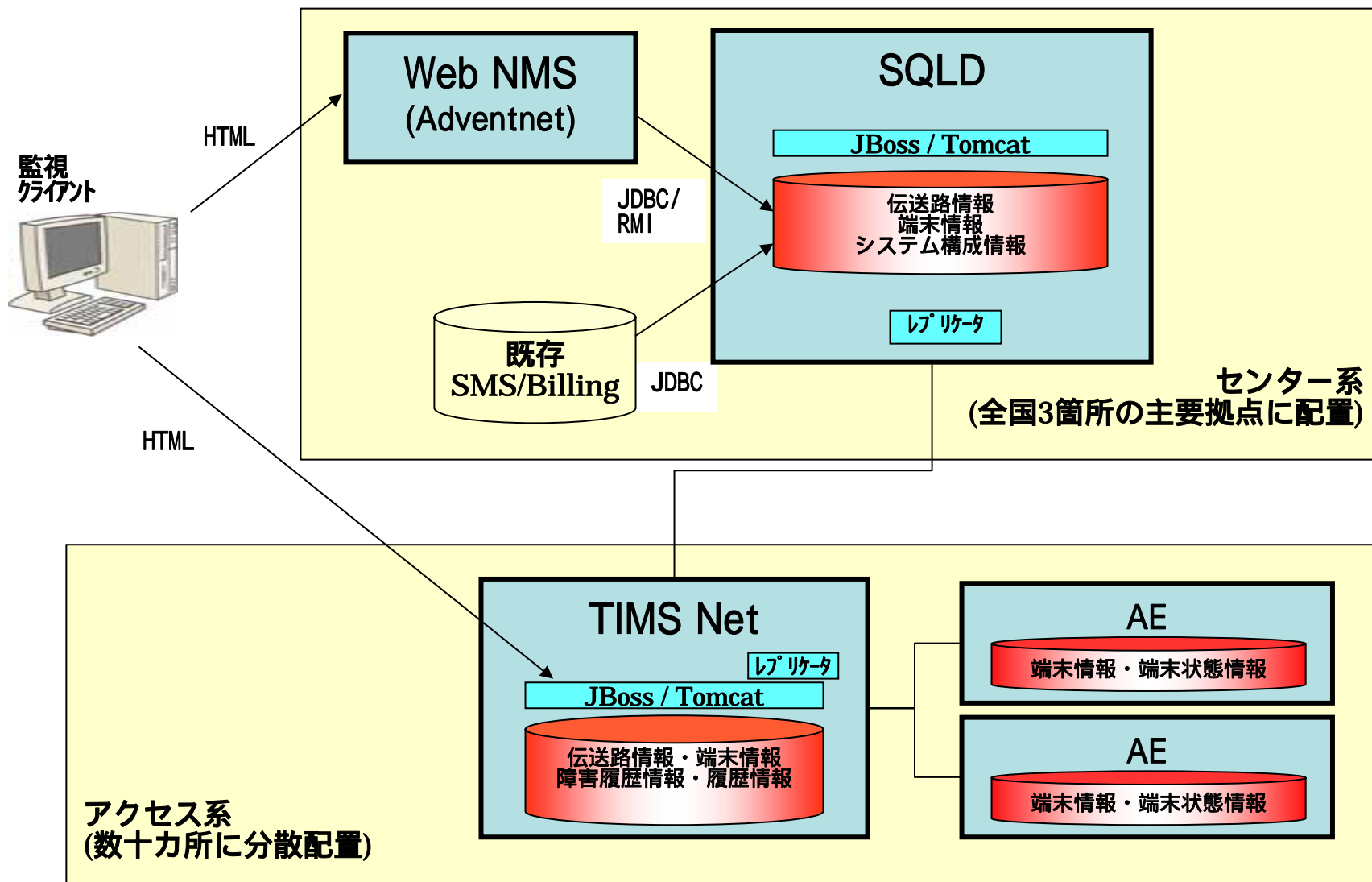
◆ その他の実績

- ◆ ひまわりネットワーク(愛知県豊田市)
- ◆ NNS(山梨県甲府市)
- ◆ 大田ケーブルネットワーク(東京都大田区)
- ◆ コアラテレビ(千葉県松戸市)
- ◆ E-LANケーブルメディア他2局(台湾)

◆ 日本国内の市場シェア(監視系製品)

- ◆ 構築中のシステムを含め、2007年3月末現在で約15%

事例紹介: JCOM殿



JCOM殿事例紹介URL

http://www.ossbn.co.jp/jpn/news/news_release.html

大田ケーブルネットワーク殿事例紹介URL

<Webページ更新準備中です>

その他のお問い合わせは・・・

info@ossbn.co.jp